

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501429		
法人名	社会医療法人 共栄会		
事業所名	グループホームまいホーム川北二番館 4階		
所在地	北海道札幌市白石区川北1条3丁目7-18		
自己評価作成日	平成29年1月28日	評価結果市町村受理日	平成29年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護福祉士や介護支援専門員などの資格を有した職員が多くおり、日々利用者様と関わりを多く持ちながら「そこにいるだけで、癒される環境」をめざした支援を心掛けています。利用者様、家族様とも何でも話しあえる関係作りに努め、ゆったりとした時間の中で、馴染みの利用者様同士や職員と関わりながら、安心して生活できるよう表情や言動にも配慮しながら支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=0190501429-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成29年2月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居間や管理室内の見やすい場所に理念を掲示し、いつでも見る事が出来る。職員は全員で理念を共有し意識して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入会し、ゴミ拾いや古紙回収、お祭りに参加するなど地域との交流を図っている。運営推進会議で町内会の方に日頃の様子やイベントも報告している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に家族様や町内会の方も参加されている。その際に質問を受けたり、説明を行い地域の方々に活かして頂けるよう努めている。また、見学や相談などはいつでも応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、利用者様、家族様、地域住民、包括の職員などに参加して頂き、状況の説明や報告を行っている。その中での意見はカンファレンスなどで報告し、全員で共有しサービス向上に生かす努力をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が連絡を取りあい、協力を仰いだり、必要事項を連絡しあっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束についての理解が出来ており、一切行っていない。研修会などを通じて拘束について学んだり、職員間でもお互いに注意しあい身体拘束のないケアを行っている。1階の玄関のみ防犯・安全の為、オートロックになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加するなどし全職員が虐待についての理解ができており、虐待は一切ない。職員間で互いに注意し発言にも十分注意し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し理解を深めている。現在活用している方はいないが、必要時はいつでも支援を行うことが出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に充分説明し理解を得ている。利用者様や家族様の不安や疑問点にはいつでも対応しており理解や納得を得ている。解約や改定時も同様。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、第三者機関のポスターも掲示している。家族様の来所時に様子を伝えたり、要望や意見を伺いケアに繋げるよう努めている。また毎月お便りをお出し、体調や様子などをお伝えしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はリーダー会議やカンファレンスに同席され、職員の意見や提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は各々が向上心を持って働けるよう困り事や不安などを聞くなどコミュニケーションを深めている。資格や勤務年数、勤務態度に応じ正社員への登用もあり働きやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じた研修を受ける機会がある。新人職員には仕事を通じてレベルアップしていけるよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は会議などで交流を図っている。職員は研修に参加した時などに交流を持つことが出来るが、相互訪問はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分に時間をかけ困り事や不安な事がないか聞き取りをしている。ご本人の話を傾聴しながら安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に聞き取りし困り事や不安な事・要望を汲み取るよう努めている。出来るだけ早い段階で信頼関係が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族様と時間をかけ、ゆっくりと話しを聴き、何を必要としているのかを見極め、他のサービスを含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事、やりたい事を続けていけるよう支援している。センター方式のツールも使用しニーズの把握に努め、人生の先輩として敬いながら暮らしを共にする者同士の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後よりこまめに連絡をとったり、状態が変わった時はすぐに伝えている。毎月お便りを送付し、写真なども同封している。レクレーションへの参加も呼びかけ共に支える関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や外泊はいつでも自由に出来る。希望時には電話や手紙のやり取りも出来、馴染の関係が続けていけるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や入居者様同士の関係を把握し食事の席などにも配慮している。自室で過ごすことを好む入居者様もいるが、孤立しないよう訪室してお話ししたり、ゲームや運動・製作などへの参加を呼びかけたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の問い合わせや相談に応じたり、他サービスとの連絡調整など行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の思いや希望の把握に努めている。センター方式でのアセスメントやプランの見直し時の聞き取りでもご本人の意向を確認し職員が共有して対応するよう努めている。出来るだけ本人本位になるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から出来るだけ詳しく聞き取りしたり、センター方式のツールを利用して把握に努めている。収集した情報は記録に残すなど職員間で共有し対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりから出来る事、できない事の把握に努め、記録に残しカンファレンスや日々の申し送りなどで共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には面会時等で意見や意向を聞いている。カンファレンスなどで情報交換し現状に即したプラン作りに努めている。定期的に行われるデイケアのカンファレンスでも情報を交換している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア内容を詳しく記録に残し、小さな気づきにも対応できるよう申し送りやカンファレンスで情報を共有し実践している。またプランの見直し時にもその内容を活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診やデイケア通所のほか、希望に応じ買い物や外出の援助も行っている。訪問美容や介護タクシーの利用にも随時対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のお祭りに参加したり、町内会の清掃にも参加している。地域のボランティアさんを招き楽しんで頂いたりしている。ホームのレクリエーションや消防訓練などに地域の方に参加して頂き緊急時の協力もお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に沿って受診できる。かかりつけ病院(トロイカ病院)との連携をとりながら適切な医療を受けられるよう支援している。月1回の皮膚科の往診や眼科、整形外科、歯科受診など状態に応じ受診できる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、日々状況を報告し共有している。外来受診時には職員が同行し情報を共有したり相談したりしている。定期的に訪問看護もあり、いつでも相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には添書を作成し日々の経過を伝えている。入院中も出来るだけお見舞いに訪れ状態を把握したり、面会で安心して頂けるよう心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居後早い段階でご本人やご家族、担当医と話し合いをしている。かかりつけのトロイカ病院は緊急の受け入れや治療が難しいことやホームでは終末期の対応を行っていない事など説明し納得頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受けている。入居者様の既往歴や現在の病気を把握し状況に応じた対応が出来るよう努めている。緊急対応マニュアルもあり、いつでも見ることが出来る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防の方や地域の方にも参加して頂くなど協力体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した声掛けや、その方の性格、その時々状況に応じた言葉使いや対応をしている。プライバシーに配慮し個人的なことは、居室で行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服を選んだり、その日の活動などを自身で決めて頂いている。自己決定出来ない方には、選びやすい声掛けや対応に努めている。日頃からご本人の希望を把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や入浴など出来るだけご本人の希望に沿うよう努めている。自身で決められない方には、いくつか提案し希望に沿った生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを尊重しその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。その日に着る服を選んで頂くなど押しつけにならないよう、さり気ない声掛けを行っている。希望に応じ美容院や訪問美容も利用して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いたり好みを把握し工夫しながらメニュー作りをしている。簡単な調理準備や食器拭きなどを職員と一緒にいたりしている。また外食や出前なども楽しんで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量などは記録し、栄養バランスにも配慮している。個々の状態に応じた食物形態や量にも配慮している。月2回体重測定を行い、摂取量の少ない方には栄養補助食品の提供なども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをして頂いている。個々の状態に応じた声掛けや介助を行っている。毎日歯菌洗浄の声掛けし清潔が保たれるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックに記入し、各々の排泄パターンを把握し声掛けもしている。状態に応じた声掛けや介助を行うとともに、必要な方にはポータブルトイレを使用して頂くなど出来るだけ自立に向けた支援をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックに記入し、各々の排便状態を把握している。運動や食事前の嚥下体操も取り入れ便秘にならないよう配慮している。野菜を多く摂れるようなメニュー作りや乳製品も提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間を除き、出来るだけ希望に沿うよう配慮している。入浴中の安全確認や見守りも個々の状態や要望に合わせて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況や生活習慣に応じた安心して休めるよう寝具や居室の温度・湿度に配慮している。定期的に寝具の交換や洗濯を行い清潔も保っている。休みたい時は、いつでも自由に休む事ができる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬表をファイルし、いつでも確認できる。個々の状態に応じた服薬の支援を行い、受診時には細かく記録し、申し送りもしている。症状に変化があった時は、かかりつけ病院に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味、楽しみ事を把握し、やりたい事が出来るよう支援している。デイケアにも参加され気分転換も出来ている。散歩(冬季を除く)や外出しなども企画し楽しんでいただけるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物など希望に沿って支援している。冬季以外は外出レクリエーションを行い、普段行けない場所にも行かれ楽しまれている。ご家族の協力を得て、いつでも一緒に外出できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は自身で管理しているが、大半の方は了解を得てホームで管理し買い物時や外出レクリエーション時など自身でお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、いつでも電話をかけたり、受けたりできる。手紙の投函も希望に応じ対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や玄関には季節に応じ、一緒に作成した飾り物を飾っている。夏はクーラー、冬は加湿器を使用し温度や湿度にも配慮している。テレビの音量にも配慮し居心地良く過ごせるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には3人用ソファや1人掛け椅子などが設置され、それぞれ好きな場所で自由に過ごすことが出来る。仲の良い入居者さん同士がすぐ側で会話を楽しんだり、居室でテレビを観たりと思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参されたり、馴染みの品を持って来られたりし、それぞれが居心地よく過ごされている。自身で書いた塗り絵を貼ったり、習字を貼ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を付けたり、目印をつけたりしている。床はバリアフリーになっており、トイレや浴室には解りやすい表示がある。廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されており障害になるものは置かず安全に配慮している。		